

甲府・近代人物館で展示



人の美業家の歩みを紹介。峡中新聞の第1号や高野が留学先に持ち込んだ仏語辞書といった逸話も公開されていない資料を含む28点が並んでいる。

担当者は「日本、山梨で初めてこのことに挑戦した人々がいた。失敗や成功を含め、多くの挑戦によって生活が成り立っていることを感じてほしい」と話している。

9月16日まで。午前9時〜

根補修

に活動報告

旧職人派遣協会（本部 甲府市猿橋町殿上、石岡博泰理事長）が9日、山梨県庁で長崎幸太郎知事に支援活動の状況を報告した。県内の職人19人を、含む全国83人のメンバーが活動し、計20日間で住宅47棟の屋根にシートを掛けて補修した。

報告では、石岡

能登半島地震の被災地での活動について報告する全国災害復旧職人派遣協会の石岡博泰代表理事長（左）県庁

代表理事が被災状況や屋根での作業について紹介した。被災地に向かう道路が倒壊した住宅などで寸断し、地図通りに進むのが困難だったと説明。2月上旬から約2カ月間で5度の派遣を行い、「雪や雨が降るような天候不順の厳しい寒さだったが、被災者から感謝の言葉をもらって温かい気持ちで作業を行えた」と振り返った。

協会は県の要請を受け、能登にメンバーを派遣した。長崎知事は「大変な苦労があったと思うが要請にすぐに対応していただき、県として誇りに思う」と話し、活動参加者に感謝状を贈った。

協会は被災地へ職人をスムーズに派遣するため、2017年に設立。19年に県と被災地に職人を派遣する協定を締結した。

〈雨宮文貴〉

看護学生ら県に要望書 修学資金制度 拡充を

共立高等看護学院（甲府市）の教員や学生らは9日、県内に就業することで返還が免除される看護職員の修学資金制度について、県に拡充を求めた要望書を提出した。

同日は学校関係者が県庁を訪問。代表して河西光子副学院長が「資金は希望する全学生に貸与してほしい」とする



要望書を手渡す河西光子副学院長（中央）＝県庁

要望書を清水康邦邦務課長に手渡した。同席した学生3人

社会福祉法人に 収益の一部寄付

県信組協と都留信組

県信用組合協会と都留信用組合などは9日、大月市七保町葛野で児童養護施設などを運営している社会福祉法人「葛葉学園」（鈴木正夫理事長）に10万1415円を寄付した。



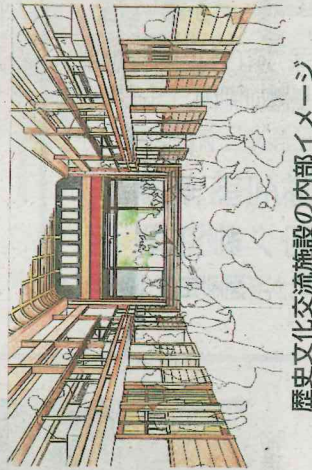
施設で行われた贈呈式では、都留信用組合の渡辺和彦理事長が「長い歴史のある施設。子どもたちのため、運営に役に立てほしい」と目録を手渡した。鈴木理事長は「子どもたちの健やかな成長に努めるために活用したい」と話した。サッカーボールや学習机用の椅子の購入費に充てるという。

寄付金は信用組合業界のクレジットカード「しんくみ」と「ターパンカード」の収益の一部。難病や障害のある子どもとその家族を支援する団体などに定期的に寄付している。

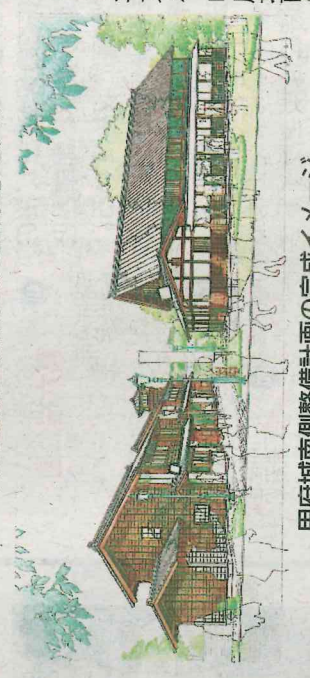
〈赤池悠〉

甲府で官民協働 回遊性向上

学識経験者や甲府市内の経営者らでつくる「甲府まちなかエリアプラットフォーム」（雨宮操会長）と市は、中心市街地と周辺住宅地で構成する「まちなかエリア」（約330秒）を対象にした「官民協働によるまちづくり指針「甲府まちなか未来2030」2024」を策定した。公園など公共空間の活用策を提案していて、本年度は指針を基



歴史文化交流施設の内部イメージ



甲府城南側整備計画の完成イメージ

芝原小屋豊座をイメージし、資材の一部には真産木材を利用する。1階席は芝原小屋の雰囲気に合わせて丹度にすることもできる。歴不奈や

甲府城南側整備計画の完成予想モデル

